

# マンモグラフィ遠隔読影事業 システム運用開始

平成19年7月2日

弊社のシステムを利用した、岐阜JAグループ病院（岐北厚生病院、西美濃厚生病院、東濃厚生病院、久美愛厚生病院）JAグループ以外では、労働基準協会、産業保健センターのデジタルによる遠隔マンモグラフィシステムの運用が7月に開始されました。

弊社では5年前より、CRマンモグラフィの遠隔読影、フラットパネルマンモグラフィの遠隔読影システムを納品してまいりました。今回のシステムのもうひとつの特徴は、検診読影システムと支援側と依頼側をシームレスに連携可能なシステムを開発したことです。

今後も、放射線科の業務効率向上のために、新しいシステムを開発してまいりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

## マンモグラフィ遠隔読影事業

モデル事業は、「マンモグラフィによる乳がん検診を促進し、乳がん患者の早期発見、死亡率の減少に資するため、マンモグラフィの読影診断について十分な経験を有する医師の確保が困難な地域においてもマンモグラフィによる乳がん検診を実施することができるよう、マンモグラフィ検診を行う機関と画像読影診断のための支援を行う検診機関との間において、画像を送受信することにより診断を行うマンモグラフィ検診遠隔診断支援モデル事業を実施し、全国的な展開のための課題等の検証を行うこと」を目的としている。



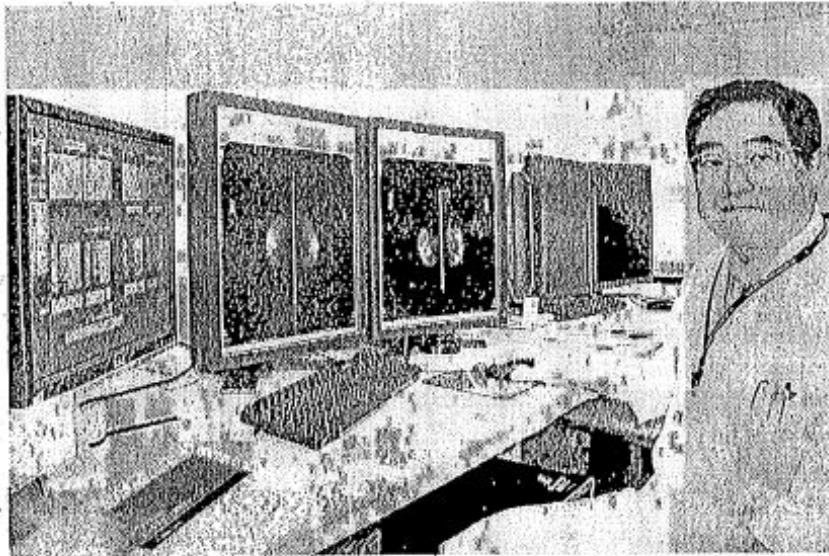
↓ 次ページに新聞掲載記事

2007年(平成19年)8月2日 木曜日

# 撮影画像を「ネット診断」

# 乳がんの早期発見に弾み

山 県 市 の  
岐北厚生病院



マンモグラフィーによる乳がん検診を呼び掛ける山本悟院長＝山県市高富、岐北厚生病院

マンモグラフィー（乳房エックス線検査機器）による乳がん検診を促進するため、山県市高富の岐北厚生病院は三月に厚生労働省の指定を受け、県内の五つの医療機関からマンモグラフィーで撮影した画像をネットで受け取って診断する「遠隔診断支援モデル事業」を、七月から始めた。

（小西里奈）

## 5医療機関と連携

事業の指定を受けたのは、同病院を含む全国七施設。マンモグラフィーの画像診断は通常二人の専門医で行うが、医療機関によっては専門医が足りず、マンモグラフィーのフィルムを外部の医療

機関に持ち込むなど手間が掛かるといふ。こうした受け入れ側のばらつきをなくし、ネットのやりとりで診断を迅速化して受診者の増加を目指す。

同病院では専門医が六人おり、モデル事業による七月のネット診断件数は約四百件だった。本年度中には約九千件の画像診断を見込んでいる。

山本悟院長は「ネット診断なら二、三日。外部に持ち込む場合よりも一週間ほど早く診断できる。乳がんは女性に最も多いがん。発生が増えても死亡率が減っている国の例があり、早期発見がとて重要」として、積極的にマンモグラフィー

検診を受けるよう呼び掛けている。

岐北厚生病院が連携し

ている医療機関は、久美愛厚生病院（高山市）、東濃厚生病院（瑞浪市）、

西美濃厚生病院（養老郡養老町）、県労働基準協会連合会（岐阜市）、県

産業保健センター（多治見市）。